No	資料	主なご意見	対応方針
1	資料2	(1ページ、2 指標による評価の3行目～6行目) 基準値、目標値、参考値、実績値、現状値の各言葉の意味が分かるように記述した方が良い。	基準値、目標値、参考値、実績値の説明を追記しました。また、5ページの現状値につきましては、基準値に修正しました。
2	資料2	(5ページ、7 計画の進捗状況、(1)基本方針1の成果指標) 成果目標の「市内の温室効果ガス排出量」については、基準値と現状値とは2013年度の実績値、目標値は2030年度の目標値、参考値は該当年度の目標値、実績値は該当年度の実績値を意味しますか。	ご記載のとおりです
3	資料2	「指標の評価」の評価基準について、「参考値」からの解離と推察するが、どの位の解離でS、A、B、Cとするのか。 また、指標全体の評価を点数化する意味について疑問を持っている。	すべての指標を参考値からの解離率によって一律に評価することは難しいと考えております。参考値を踏まえつつ、外部要因等の諸般の事情を考慮し、現段階においては総合的な評価を各主管課にお願いする形で進めております。 指標全体の評価を点数化する意味につきましては、点数化を目的としている訳ではなく、基本方針全体の進捗状況を明確に表すことを目的としております。委員の皆様にご審議いただき、より良い進捗確認方法がございましたら、お示しいただきたいと考えております。
4	資料2	(2ページ、3 総合評価、1行目及び図2 総合評価の流れ) 外部要因とは何か、外部要因等の等とは何か。例示することは出来ないか。 図2では外部要因、本文では外部要因等としているので、平仄を揃える必要がある。	「等」を削除しました。また、外部要因の例示を図2中に追記いたしました。
5	資料2	(2ページ、4 評価のタイミング) 「指標の評価」とはどういう意味ですか。成果指標に対する指標評価を行うことであれば、毎年度行うことが望ましい。 また、「指標の推移を評価するタイミング」について、今後検討している理由を教えてください。原則として、実績値が判明した時点で行うことが望ましい。	分かりづらい表現がありましたので、表現を変更させていただきました。 指標の推移を評価するタイミングにつきましては、審議会でご審議いただきたいと考えておりましたが、再検討を行った結果、事務局としては毎年総合評価を出すことが可能なため、毎年実施することを考えております。そのため、資料の文言につきましても削除しております。

6	資料3	<p>「基本方針1」の「温室効果ガス排出量」、「エネルギー使用量」、「家庭部門のエネルギー使用量」について、意味合いは関連重複するもので実績評価はほぼ同じになると思われる。さらに「高効率給湯器」「太陽光」「蓄電池」を合わせて平均値をとる方法は、個々の内容で重み(重要度)が異なるので意味があるのかと疑問がある。</p>	<p>ご指摘のとおり、指標内容に重複する性格がございます。それぞれの関係性としては、温室効果ガス排出量が最上位の項目としてあり、それに包含される形でエネルギー消費量、また、それを細分化したのものとして家庭部門のエネルギー消費量となります。</p> <p>温室効果ガス排出量として全体の削減推移を見つつ、それを構成するエネルギー消費量として全体の省エネ化の進捗、また、排出量の3割を占める家庭部門を細分化してみることで、家庭でのエネルギーの使い方を把握し、計画の全体的な進捗やどこがボトルネックになるかの要因分析のきっかけになると考えております。</p> <p>総合評価は「成果指標」のみを対象としており、参考・取組指標は含めない算定方法としております。</p> <p>「高効率給湯器」「太陽光」「蓄電池」は成果指標ではないため、平均値は取りません。</p>
7	資料3	<p>(1ページ、12ページの「主な取組内容等」欄)和暦で記述している箇所があるので、西暦に統一する。</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。修正いたしました。</p>
8	資料3	<p>(2ページ、民生(家庭)部門のエネルギー消費)「世帯あたりで見ると、基準値を下回っている」という記述の意味が分かりにくい。資料4のスライド5、府中市のエネルギー消費量(家計部門の世帯あたり)のことであれば、そのことが分かるように追記する。</p>	<p>記載のとおりですので、文言を追記しました。</p>
9	資料3	<p>(5ページ、生物多様性や自然環境の保全につなげる行動を始めている市民の割合)基準値がないので(定めていない)、実績の評価はSではなく「(出来ない)」ではないか。</p>	<p>実績値がないことから、目標値のみ設定しておりました。昨年度は調査ができず、今年度春に実施している市政世論調査におきまして調査した数値を参考に入れさせていただいております。結果としましては、大幅に超えている値ではないためS Aに修正いたします。2024年度につきましては、改めて秋に実施される市民意識調査において調査できるよう主管課へ調整中です。</p>
10	資料3	<p>(7ページ、府中水辺の楽校事業イベント参加人数(累計))実績値から、実績の評価はB Cではないか。実績の評価を変更しないときは、その理由(外部要因等)を追記する。</p>	<p>雨天や多摩川河川工事の関係で急遽3イベントが中止となったため、実際実施できた場合、約234人参加予定であることからBと評価しております。</p>
11	資料3	<p>(7ページ、小・中学生に対する自然環境教室の実施件数)実績値から、実績の評価はA B又はCではないか。実績の評価を変更しないときは、その理由(外部要因等)を追記する。</p>	<p>雨天、河川工事の関係で、7イベントが中止になったため、実際実施できた場合、18回実施する予定であったことから評価しましたが、ご指摘のとおり、B評価に変更いたしました。</p>

12	資料3	(9ページ、最終処分場での埋立処分量) 目標値の値を0としているが、との記述ではないか。資料2の7ページ、第3次府中市環境基本計画の82ページではと記述している。	計画で-となっているのは削減目標であり、目標は0tを維持としておりますので、このままの標記とさせていただきたいと考えております。
13	資料3	(14ページ、府中水辺の楽校参加者述べ人数(開催回数)) 実績値から、実績の評価はB Cではないか。実績の評価を変更しないときは、その理由(外部要因等)を追記する。	NO.10と同様の評価といたしました。
14	資料3	(15ページ、多摩川清掃市民運動参加者数) 実績値から、実績の評価はB Cではないか。実績の評価を変更しないときは、その理由(外部要因等)を追記する。	コロナによる中止を経て再開しましたが、明けてから参加者数が戻っておらず、目標を下回っている状況です。そのため、実績の評価をBにしておりましたが、Cに変更します。今後も参加者数の周知啓発を行い、参加者数の増加に努めたいと思います。
15	資料4	温室効果ガスの排出量で府中市の排出量(2021年度)が国や都と比べて多いのは何が原因だと考えられるか。	国や都の算出方法が異なることや人口動態などにも影響を受けるため、推測の域を出ませんが、国と比較して家庭部門の排出割合が高くなっています。都心部では依然として「まん延防止等重点措置」などの対策が実施されていたことから、リモートワークの継続等により下げ幅が限定的であった可能性があります。また、東京都と比較すると、業務部門の排出割合が高くなっていますが、推計による差が大きいため、今後精査していく必要があると考えております。
16	資料4	電力の二酸化炭素排出係数が前年比+2.5%に増えた原因は何だと考えられるか。	東京電力の電源構成を見る限りでは、環境負荷が比較的少ないと言われるLNG(天然ガス)の割合が減少しています。ウクライナ情勢に伴う燃料費の高騰や供給量の減少等が影響を与えた可能性が考えられます。
17	資料5	資料3の実績の評価の結果によって、評価欄を修正する。	修正いたしました。